



新日鐵住金

しんにってつすみきん

株 主 の 皆 様 へ

2018

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたびは、当社グループの経営方針や経営の概況をお伝えいたしたく、
本冊子をお届けいたしますので、ご高覧賜りたく存じます。

今後も当社グループへの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

2018年2月
新日鐵住金株式会社



株主の皆様へ

株主の皆様の日頃のご理解とご支援に、心から御礼申し上げます。

当社を取り巻く環境

昨年2017年は、多くの政治的・地政学的リスクを抱えて幕を開けましたが、鉄鋼マーケットは、好調な世界経済を背景に堅調に推移しました。特に中国においては、過剰生産能力の削減が進展したこと、また、内需も堅調であったことから、世界の鉄鋼需給もおおむね安定的に推移しました。

しかし、石炭などの原料価格は、原料マーケットの構造変化とともに乱高下の様相が顕著となってきました。また、原油価格も低迷を続けるなか、エネルギー関連の鋼材需要の回復には今しばらく時間がかかる見込みです。加えて中国の過剰生産能力問題も、解消に向け、進捗はしているもののまだ途上であり、今後ともその動向を注視していく必要があります。

メガトレンドの認識と次なる成長に向けて

さて、世界の産業の潮流は大きな変化の局面を迎えています。

中長期的に鋼材需要は、新興国のインフラ需要を中心に、ゆるやかに伸びていくと想定されています。しかしながら、世界各国で保護主義化や自国産化を目指す動きが鮮明となってきました。また競合者は、会社の統合・再編や、一定レベルの操業ノウハウが搭載された最新鋭の製造装置の導入等を背景に、一層激しく追いつけてきており、当社の競争環境はますます厳しさを増しています。将来的には、地球温暖化問題への取組みの強化や、世界的なスクラップの蓄積進展を背景とした一層のリサイクル推進等、社会からの要請もますます強まってまいります。

また、自動車業界においてはEV（電気自動車）化の方針が、中国や欧州等の国々で大々的に打ち出されました。こうしたなかで、軽量化要請の高まりとともに、求められる素

材が変化していく可能性も含めて、将来的には鋼材の需要構造への影響が生じることが想定されます。

このように鉄鋼業界やお客様業界においても、参画するプレーヤーやビジネスモデル自体が、速いスピードで、大きな変化を迎えようとしているなか、当社自身がこれにどのように対応していくべきか、当社の経営方針と事業戦略について深く検討していく必要があります。

本年は、当社にとって新たな中期経営計画をスタートさせる年となります。グローバルに広がる当社マーケットにおいて、成長していく需要を捕捉し、収益を上げていくために、今後10年・20年先を見渡したうえで、「この3年で遂行すべきこと」と、「完遂には時間がかかるがこの3年の間に着手していくべきこと」という2つの観点から中長期的な事業戦略を描き、スピード感をもって実行してまいります。

本年取り組む重点課題

安全と品質の重視

当社はものづくりにおいて、まず何よりも安全・環境・防災、品質を優先し、そのもとで安定生産を追求するという価値

観を大事にしています。社会からの信用・信頼こそが事業継続の大前提と考え、このことを当社グループの社員一人ひとりが肝に銘じ、引き続き日々の業務にしっかりと取り組んでまいります。

設備と人の再構築

これまでどおり「設備と人の再構築」には長期的な視点を持って、継続的に取り組んでまいります。設備面では、品種事業戦略をベースに、基幹設備のリフレッシュも含め各種設備の健全性を維持・強化してまいります。その際、生産年齢人口が減少するなか、安全で、多様な人材が活躍できる職場づくりが必要となることも念頭に、作業負荷の軽減や設備の自動化、また高度ITの実装にも足下から着手するなど、先端技術を導入しながら製造現場の高度化を進めます。

人材面では、世代交代の大きな波のなかで、多くの製造拠点で社員の若返りが顕著となっていますが、こうした若さも新たな力の源としていくべく、長期的な視点に立った人材育成施策を推進してまいります。

品種事業戦略の深化

当社は積極的に現地生産化を進めてきた結果、今では海外事業の多くが収益的にも貢献するようになってきました。合弁事業のパートナーとなっている海外の事業者の動向も注視しながら、課題の一つひとつ対処し、海外事業の一層の収益基盤強化を図ってまいります。

また、国内のマザーミルの安定生産に向けた努力の成果を確実に収益の改善につなげていくために、マージンの回復とグローバルマーケットにおけるシェアの確保に努めます。中長期的には、当社製品のブランド化とそのブランドを活かした営業展開を検討していくとともに、サプライチェーンやバリューチェーンのなかで、価値や機能を拡大した製品・サービスやソリューションの提供を検討するなど、様々な視点から営業力の再構築に取り組み、持続的な収益改善



大分製鐵所の巡回視察

の実現を目指します。

当社の事業戦略において国内事業と海外事業は一体不可分の車の両輪です。国内と海外を品種事業の目で一貫して眺めた総合的な品種事業戦略を構築し、深化させていきます。

標準化と業務改革

取り巻く環境の変化とともに業務も複雑化していくなか、業務遂行の基盤をしっかりと整え、全社最適を実現する仕事の仕方へ変えていくことが、当社の生産性を向上させていくことにつながります。現場の第一線から経営幹部まで、課題意識とゴールのイメージを明確に共有し、改善策をできることから一つずつ着実に実行していきます。現在全社をあげて取り組んでいる標準化活動に、日進月歩で進化する高度ITを可能な分野から順次融合させていくことで、抜本的な業務運営の改善につなげていきたいと思えます。これらの活動は、結果として働き方の改革につながり、活力ある職場環境を整えることにもなると考えており、前向きに取り組んでいきます。

今年度の業績見通しと当期末の配当予想について

今年度の連結業績につきましては、経常利益は3,000億円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,800億円（第2四半期決算発表時から100億円増益）となる見通しです。

当期末の剰余金の配当につきましては、当期の業績見通し等を踏まえ、1株につき30円とさせていただく予定です（年間配当金としては1株につき60円、連結配当性向30%程度）。（詳しくは、3頁「業績概況 2018年2月1日公表」をご参照下さい。）

当社は、昨年10月に経営統合から5年を迎えました。この間、着実に統合効果を発揮してきました。昨年には日新製鋼(株)もグループに加わり、当社グループが競争を優位に進めていく基盤は一層整ってきました。徹底的に足腰を鍛え、次の5年、そしてその先の未来に向かって持続的な成長を遂げていくよう、着実に取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 進藤 孝生

業績概況

2018年2月1日公表

2017年度連結業績予想及び当期末の配当予想について

●足下の事業環境について

世界経済は、米国において景気の着実な回復が続き、欧州においても景気が底堅く推移していることに加え、中国では景気が安定的に推移し、新興国においても緩やかな景気回復が続いていることから、各国の政治情勢等に起因する不透明感に残るものの、総じて回復基調が続くものと想定されております。日本経済については、個人消費・設備投資ともに底堅く推移し、引き続き緩やかな回復が見込まれています。

国内鉄鋼需要は、自動車向けや建設・土木向けなどで、堅調に推移することが想定され、また、海外鉄鋼需要については、引き続き底堅く、安定的に推移すると見込まれています。国際市況については、中国における需給バランスが堅調に推移していること等を背景に、安定して高位で推移するものと見込まれます。

●当期連結業績予想について

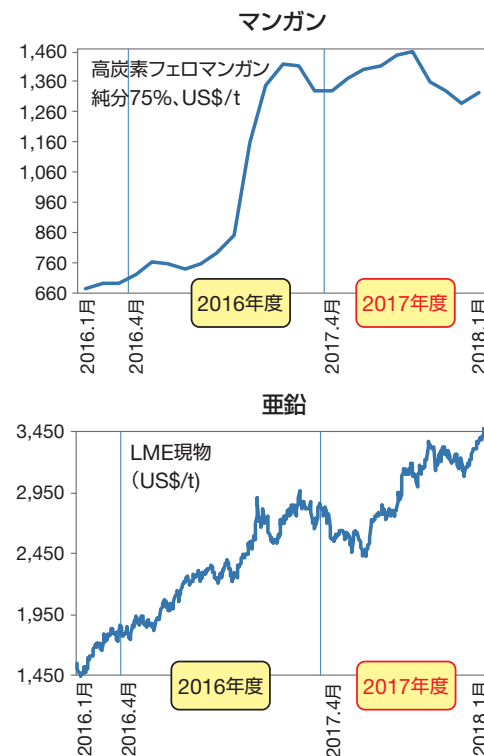
このような環境下、2017年度通期の連結業績につきましては、合

金(マンガン、亜鉛等)、スクラップ等の副原料価格や資材費、物流費等の上昇による収益悪化要因があるものの(図1参照)、中期経営計画にて計画したコスト改善を着実に推進する一方(図2参照)、「再生産可能な適正マージン」の確保へ向けた継続的な取り組み、海外事業を含めたグループ会社の更なる業績改善(日新製鋼(株)の連結子会社化を含む)等を通じ、連結経常利益3,000億円(対前年度+1,255億円の増益)、親会社株主に帰属する当期純利益1,800億円(対前年度+491億円の増益)を見込んでおります(表参照)。

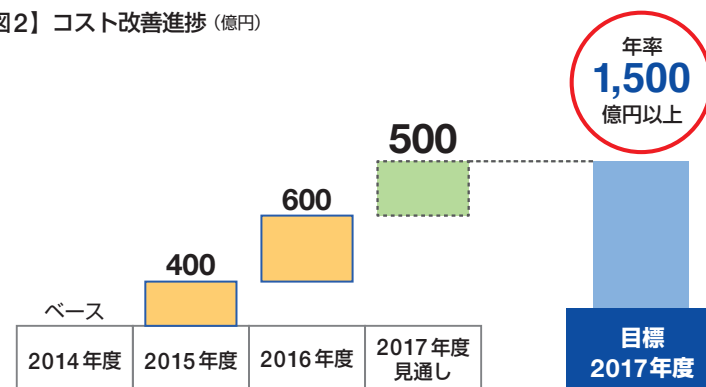
●当期末の剰余金の配当予想について

当社は、業績に応じた利益の配分(連結配当性向年間20~30%程度)を基本に、企業価値向上に向けた投資等に必要な資金所要・先行きの業績見通し、連結及び単独の財務体質等を考慮しつつ、剰余金の配当を実施する方針としております。当期末の剰余金の配当は、上記方針に従い、当期の業績見通し等を踏まえ、1株につき30円とさせていただく予定です(年間配当金としては1株につき60円、連結配当性向30%程度)。

【図1】副原料価格上昇



【図2】コスト改善進捗(億円)



2017年度連結業績予想

単位: 億円	2016年度	2017年度見通し (対2016年度)
売上高	46,328	57,000 (+10,672)
連結経常利益 ROS	1,745 3.8%	3,000 5.3% (+1,255) (+1.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,309	1,800 (+491)
単独粗鋼生産量(万t)	4,262	4,100程度 (-162程度)
為替レート(円/\$)	109	112程度 (3円安程度)

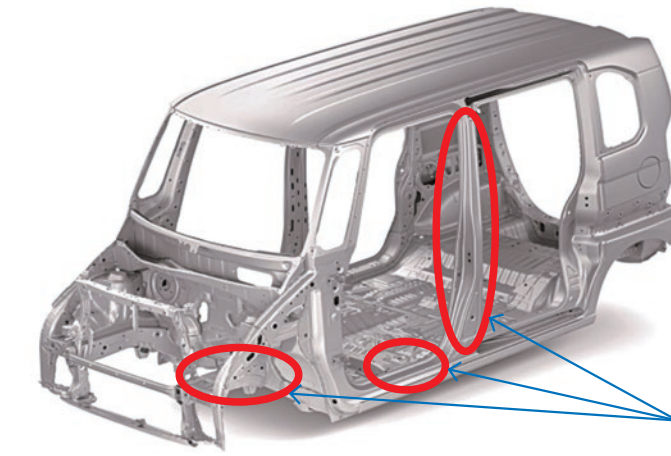
*詳しくは、次のウェブサイトからご覧ください。http://www.nssmc.com/ir/index.html

IRカレンダー

2018年3月2日	2020年中期経営計画発表
2018年4月下旬	2017年度(平成30年3月期)決算発表及び期末剰余金配当のご提案
2018年6月上旬	第94回 定時株主総会招集御通知のご送付
2018年6月下旬	第94回 定時株主総会

TOPICS

超ハイテン&ソリューション技術がHonda 新型N-BOXに採用



(画像提供: 本田技研工業(株))

当社の自動車外板用1180MPa*級冷延ハイテン、高穴広げ型980MPa級冷延ハイテン、連続フランジ工法などの超ハイテンやソリューション技術が、本田技研工業(株)(以下、Honda)の新型軽乗用車「N-BOX」(2017年9月1日発売)に採用されました。これらはHondaの研究開発を担う、(株)本田技術研究所との連携のもとボディ部品に適用され、新型N-BOXの軽量化・高剛性化に寄与しています。

*MPa: メガパスカル

超ハイテンやソリューション技術が採用された部品

中国宝武鋼鉄集团有限公司との友好協力40周年

当社と中国最大手の製鉄会社である中国宝武鋼鉄集团有限公司は、2017年11月4日に上海市で友好協力40周年を記念した式典を開催し、当社関係者が出席しました。旧新日本製鐵と旧宝山鋼鉄集団は、1977年11月に故稲山会長が訪中した際に故李先念副主席(当時)から建設協力要請を受け、1978年に故鄧小平副総理(当時)が君津製鐵所を視察されたことをきっかけに、宝山製鐵所の建設、研修生の受け入れや現地への技術者派遣などを行ってきました。友好協力40周年を機にパートナーシップをさらに強化していきます。



記念式典に参加する両社関係者

資源循環システムの開発で最高賞「経済産業大臣賞」を受賞



表彰式の様子

当社が開発した合金鉄溶解炉による資源循環システムが、「平成29年度資源循環技術・システム表彰 経済産業大臣賞」を受賞しました。本賞は先進的で高度な3R*技術・システムを有する事業・取組みを顕彰するものです。この開発により、ステンレス鋼製造時の副産物(クロム含有スクラップ・ダスト・スケール)の全量リサイクルが可能となるとともに、副産物(スラグ)発生量のミニマム化、大量の電気を消費して製造される合金鉄や生石灰の省資源化が可能となります。

◆受賞内容

- (1) 受賞名 : 平成29年度資源循環技術・システム表彰 経済産業大臣賞
- (2) 主催者 : 一般社団法人 産業環境管理協会 (後援: 経済産業省)
- (3) 件名 : 合金鉄溶解炉による資源循環システムの構築
- (4) 事業体 : 新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所

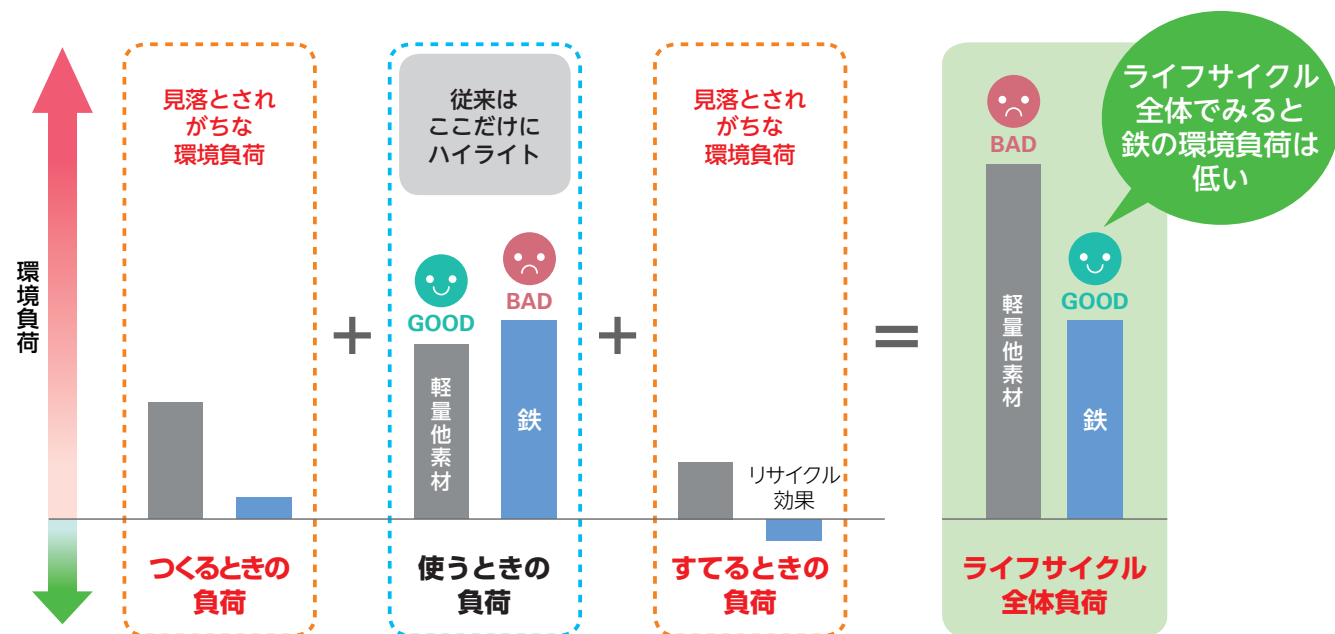
* Reduce: リデュース(削減)、Reuse: リユース(再利用)、Recycle: リサイクル(再利用)

ライフサイクルを考えれば、 鉄は優れた素材

環境負荷を考えた素材選びで重要なことは、使用時だけではなく、製品のライフサイクル全体で評価することです。例えば、軽量素材によって自動車の燃費は改善され、走行時のCO₂排出量は減りますが、素材製造により多くのCO₂が出たり、リサイクルしにくければ、本当のエコには繋がりません。

鉄は他素材に比べ、製造時のCO₂排出量が少なく、製品寿命が終わったあと100%リサイクルが可能であり、何度でも何にでも生まれ変わることができます。このように鉄は、総合的にみた環境負荷を低くすることができる優れた素材です。

製品のライフサイクル全体でエコを考える



ある製品をつくる、使う、すてるあるいはリサイクルするまでの全ての段階を通して、環境にどのような影響を与えるのか評価することを**LCA(ライフサイクルアセスメント)**といいます。

当社は、2017年12月7日～9日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2017」に出展しました。

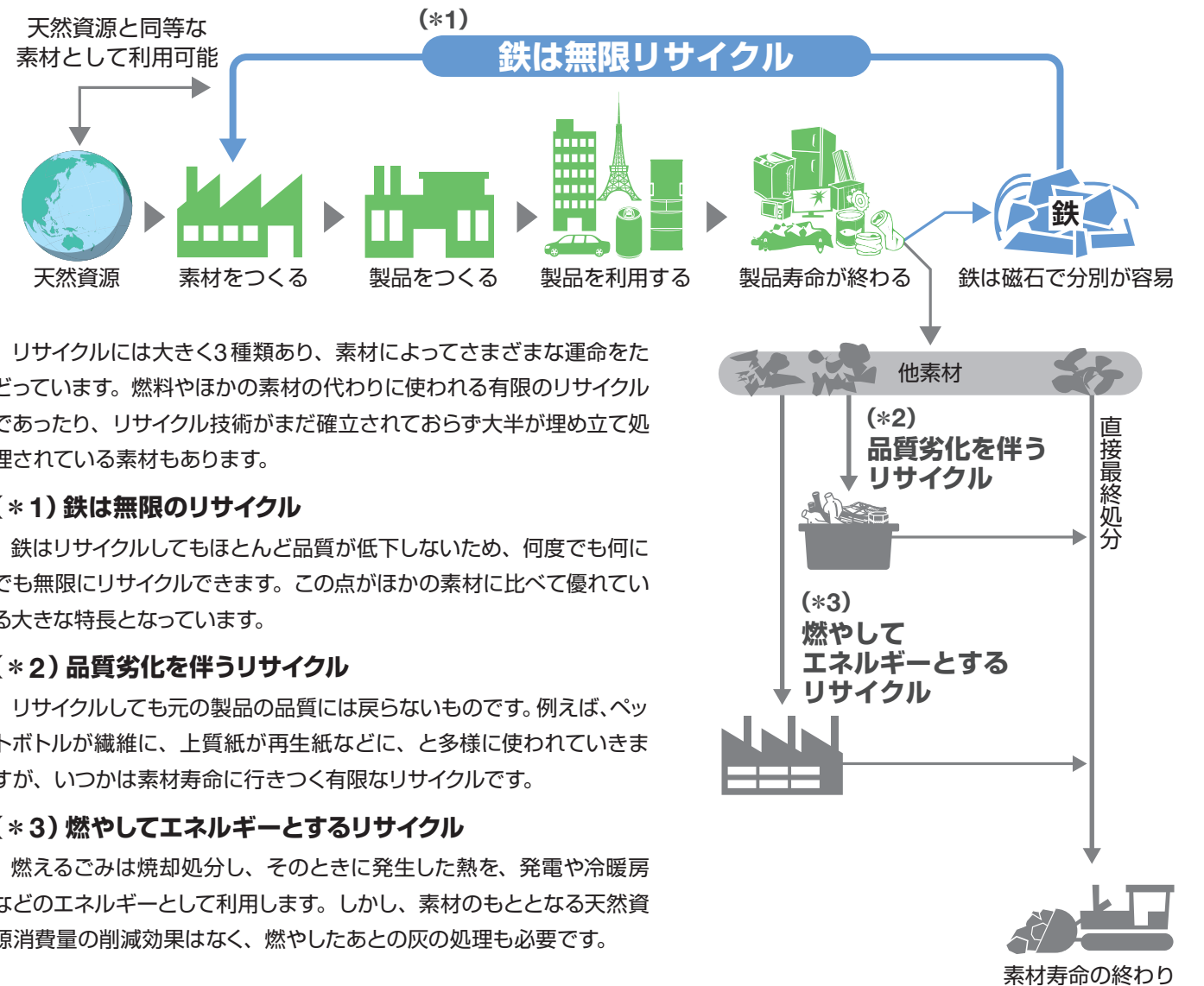
当社ウェブサイト内に今回の出展内容を紹介する専用サイトを開設していますので、是非ご覧ください。パノラマVR（バーチャル・リアリティ）による臨場感ある閲覧ができます。

<http://www.nssmc.com/csr/ecopro/2017/>

QRコードから
スマホでも
ご覧いただけます。

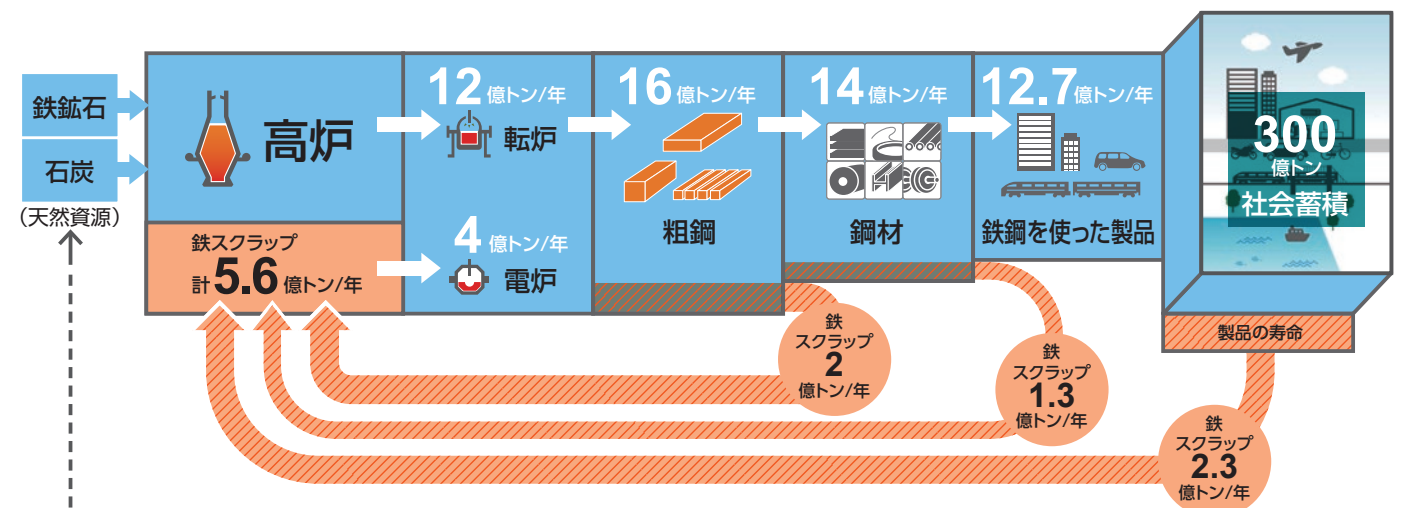


何度でも何にでも生まれ変わる鉄



【参考】世界の鉄鋼循環（数字は2015年）

データ出典：日本鉄鋼連盟



無限リサイクルされる鉄ですが、世界の需要をまかなうためには鉄スクラップだけでは不足するため、天然資源からの新たな鋼材生産が必要です。

新日鐵住金グループ企業理念

基本理念

新日鐵住金グループは、常に世界最高の技術とものづくりの力を追求し、優れた製品・サービスの提供を通じて、社会の発展に貢献します。

経営理念

1. 信用・信頼を大切にするグループであり続けます。
2. 社会に役立つ製品・サービスを提供し、お客様とともに発展します。
3. 常に世界最高の技術とものづくりの力を追求します。
4. 変化を先取りし、自らの変革に努め、さらなる進歩を目指して挑戦します。
5. 人を育て活かし、活力溢れるグループを築きます。

株主様へのご優待について

当社は、株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社グループの活動に関するご理解をより深めていただくこと等を目的として株主優待制度を導入しております。

詳細につきましては、対象の株主様に別途ご案内申し上げます。

●見学会・説明会

項 目	内 容	案内回数(実施時期)	案内対象
工場見学会への招待(抽選)	製鉄所・製造所の見学に招待いたします。	年2回案内 (3～4月頃、10～11月頃)	毎年3月末・9月末において 1,000株以上所有の株主様
経営概況説明会への招待(抽選)	東京・大阪をはじめ、各地で開催いたします。	年2回案内 (2～3月頃、7～9月頃)	

●各種優待

項 目	内 容	案内回数(実施時期)	案内対象
当社カレンダーの送付	当社カレンダーを送付いたします。	年1回送付 (11月下旬～12月初旬)	毎年9月末において 500株以上所有の株主様
鹿島アントラーズ 観戦招待(抽選)	J1リーグ戦(ホームゲーム又は アウェイゲーム)に招待いたします。	年2回案内 (4～8月頃、8～12月頃)	毎年3月末・9月末において 5,000株以上所有の株主様
紀尾井ホール 演奏会への招待(抽選)	「紀尾井ホール室内管弦楽団」の 定期演奏会をはじめとした 各種演奏会に招待いたします。	年2回案内 (4～7月頃、9～2月頃)	

株式に関する手続き

項 目	内 容
株主名簿管理人事務取扱所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (電話照会先) 当社株主様専用ダイヤル 0120-785-401(フリーダイヤル) 株主名簿管理人代表電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
住所変更、単元未満株式の 買取り・買増しのお申出先	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 (証券会社の口座で株式を管理していらない場合は、三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。)
未払配当金の支払いお申出先	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●見直しに関する注意事項

本冊子に記載されている将来の業績などの記述には、2018年2月1日決算発表時点の将来に関する前提・見直し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

新日鐵住金株式会社

〒100-8071 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号
TEL: 03-6867-4111(代表)
ウェブサイト: <http://www.nssmc.com/>